



北九州市長 北橋 健治

SDGs 未来都市として 日本一住みよいまちへ

北九州市は、九州の最北端に位置し、アジア諸国にも近いという地理的好条件から、アジアの玄関口として、また、日本の産業拠点として発展してきました。

1960年代には、ものづくりの街として発展する一方、大気や水質など、深刻な公害に見舞われました。しかし、女性団体による運動をきっかけに、市民、企業、行政が一体となって公害克服に取り組んだ結果、環境は大きく改善され、経済発展と環境保全の両立を実現しました。

1980年代以降は、この公害克服から得た経験や技術を開発途上国の環境改善に活かし、環境国際協力によるアジア各都市とのネットワークを構築してきました。

近年では、国際技術協力とともに、環境国際ビジネスや海外水ビジネスなど、都市環境インフラの輸出拡大に取り組んでおり、ベトナムやカンボジアでの水道施設整備契約を受注するなど、官民連携事業として着実に成果を上げています。

また、洋上風力発電産業の拠点化をはじめ、メガソーラー、バイオマス発電など、「多様な再生可能エネルギー」の総合供給拠点化を推進しています。

このような取組が評価され、経済協力開発機構（OECD）から、2011年に経済成長と環境政策を両立した「グリーン成長モデル都市」に、2018年には「SDGsの推進に向けた世界のモデル都市」に、いずれもアジアから初めて選定されました。さらに、日本政府からは、「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定されています。

SDGsは国連で採択された世界共通の目標で、環境、経済、教育、福祉など幅広い分野で「持続可能な社会」を未来の世代に引き継ぐことを目指すものです。

今後も、SDGs達成を目指す先進都市として、子どもから高齢者まで安心して暮らすことができるまちづくりを進め、「日本一住みよいまち・北九州市」の実現に向け取り組んでまいります。

一方、本市は国から、2020年「東アジア文化都市」の開催都市にも選定されています。これは、日中韓3か国において、文化芸術による発展を目指す都市をそれぞれ1都市選定し、東アジア域内の相互理解の促進や、多様な文化の国際発信力の強化を図っていくものです。

2020年は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される年でもあります。今後も、文化芸術をさらに振興し、「東アジア文化都市2020北九州」を盛り上げ、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を図るとともに、本市の魅力を国内外に広く発信してまいります。